

2011.04.16

北欧アンティークフェア巡り


 担当：
Rica

はじめに、東北地方太平洋沖地震で被災された皆様、そのご家族の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。東日本大震災、そして原発事故の様子はスウェーデンのニュースでも大きく取り上げられており、スウェーデン各地で被災者への募金活動が行なわれています。みな日々「がんばれ日本！」という思いで生活しております。

ここスウェーデンでは、春が近づくとストックホルムアンティークフェアを封切りに各地でアンティークフェアが開催されます。そして、世界各国からアンティークバイヤーが訪れます。

スウェーデンではテレビのアンティーク番組があるほど、古い物に興味のある人が多く、一般家庭ではおばあちゃんの代から大切に保管されているスウェーデン・アンティーク家具や食器などのコレクションを目にする事が多々あります。大切な食器は日常生活では使用せず、クリスマスなどのイベント時に登場します。なので、ひと際、特別感が増します。

アンティークフェアは、場所にもよりますが地方に行けば行くほど品物も安く、アットホームな感じで値切りやすいといった印象があります。その上、ストックホルム市内よりも掘り出し物が多いです。はるばる電車を乗り継いで来た！という達成感もあります。



ストックホルムアンティークフェアから、50年代、60年代のヴィンテージファッションショー

大きなフェアでは企画側もいろいろ思考をこらし、その道のプロを招いてアンティークレクチャーを催したり、ショーを行なったりと見所は沢山あります。今回のストックホルムアンティークフェアでは、アメリカの人気ドラマMAD MEN(マッドメン)からインスピレーションを得た、ファッションゴールデン時代ともいえる50～60年代のファッションショーが行なわれました。



ストックホルムから北へX2000の特急電車で3時間のGavle(ヤーブレ)という町で開催されたアンティークフェア

ストックホルム近郊でしたら、郊外行きの電車で約12分のKista(シスタ)のアンティークフェアがお勧めです(http://www.kistamassan.com/events/antik_h08)。ごちんまりしていますが、日本人のコレクターが好きそうな物ばかり扱っています。ストックホルムアンティークフェアと比べるとリーズナブルで掘り出し物があります。会場の雰囲気も良くリラックスできるのが魅力。今回は1800年代物が町のアンティークショップより安いように思えました。

その他、アンティークフェア情報は下記に記載しているアンティークヴァーデン雑誌のホームページをご覧くださいと思います。



スウェーデンヴィンテージグラス&ピクニックイメージ、価格帯はそれぞれ500円前後の商品が主

また、アンティークフェアの他にスウェーデンでは週末に行われている蚤の市をLoppis(ロップス)と呼びます。ストックホルムの町中にも沢山のロップス会場がありますし、夏になると郊外の駐車場でロップスマーケットの看板を目にする事が多々あります。信じられないほど安く掘り出し物が手に入ります。このロップス巡りが私にとっては夏のメインイベントです。バスケットにシャンパンとサンドイッチを詰め込みピクニックがてらのロップス巡り！夏の贅沢な過ごし方の一例です。

さて、イギリスなどのアンティークマーケットでは、信じられないような大胆な値切りもありますが、ここはスウェーデン。私も学びました。スウェーデンでは、大幅な値切りは反感を買います。逆に文句を言われたりしますので、支払い時キリのよい値切り方をお勧めします。例えば150sek品物の場合、100sekにしてみます。このくらいでしたら1回で交渉成立。スウェーデンでの買い物は「欲をかかない」のが鉄則です。

また、夏になるとそれぞれのコミュニティが主催する野外会場のアンティークフェアでは、スウェーデンのアンティーク専門誌も駆けつけるほどのお宝が登場することもあるようです。そこでは決まってオークションが行なわれています。「我こそ目利き」と自信のある方は、それぞれのフェアでオークションに参加するのも良いのではないのでしょうか？

ストックホルムアンティークフェア
<http://www.antikmassan.se/> 英語

アンティーク&ロップス情報
<http://www.antikvarlden.se/> 英語
<http://www.loppmarknader.se/> スウェーデン語のみ



WRITER PROFILE

Rica

ファッションデザイナー。ジュニアシダのデザイナーを経て代官山でオートクチュールのドレスサロン経営。のちにマルタ共和国→シシリア島...と北へ北へと移り住み、現在スウェーデン在住。2009年夏より、オリジナルブランド『Rosenkrona』を立ち上げ、北欧と日本で活動中 (www.rosenkrona.com)。各国の手工芸、アンティーク、アルゼンチンタンゴ、ワイン&食、秘境の町&村めぐりなど興味は広範囲。